

①

「スプーンくん よかったね」

脚本・画 三輪 遼 みわ はるか

あるレストランで、お客さんも、コックさんも、

店員さんも、みんな帰った真夜中に調理場で何か音がします。

ガタツ ガタツ

調理場ではいったい何が起きているのでしょうか。

— ぬく —

②

調理場ではなんと調理道具たちが

ケンカをしているじゃないですか。

調理道具たちは、

「ぼくが一番すごいんだ。」

「いや、ぼくが一番だ。」

と、怒って言いました。

— ぬく —

③

そこで、はしくん兄弟が、

「自分の得意なことを発表すればいいじゃん。」

と言いました。

みんなは、

「賛成！」

と言いましたが、スプーンくんだけドキッとしました。

— ぬく —

④

最初に、トングさんがパスタをゆでることを発表しました。

トングさんは、

「こんなの楽勝さ。」

と言いました。

他の調理道具たちは、

「おお。なかなかやるなあ。」

と言いました。

だけどスプーンくんは、びっくりしました。

—ぬく—

⑤

次に、はしくん兄弟が、野菜やご飯をいためて

ケチャップライスを作りました。

はしくん兄弟は、

「こんなの朝めし前さ。」

といばって言いました。

他の調理道具は、

「わあ、上手だな。」

と言いました。

—ぬく—

⑥

最後に、フライがえしくんが卵を焼くことを発表しました。

そして、

「すごいだろー!」

と言って、黄色く、こんがり焼けた卵をひらりと

きれいに裏返しました。

それを見ていたみんなは、

「すごくきれいだな。」

と言いました。

スプーンくんは、ますますドキドキして

悲しい気分になってきました。

—ぬく—

⑦

何も発表できなかつたスプーンくんは、

他の調理道具たちにいじめられてしまいました。

「お前なんか何もできないな。ワツハツハ。」

スプーンくんは泣いてしまいました。

するとあつという間に朝になっていました。

—ぬく—

⑧

コックさんがやって来ました。

「よし。今日も一日がんばるぞー。」

と言って、調理場に入るとびっくり。

「なんじゃこりゃー。」

なんとそこにはー

ーぬくー



⑨

ほかほかとゆげの立っているオムライスが

出来あがっていました。

そしてオムライスの前には、スプーンくんが

行儀よく待っていました。

—ぬく—

そこでコックさんは、スプーンくんを使って

おいしそうにオムライスを食べました。

コックさんはニッコニコ。

スプーンくんも嬉しくてニッコニコ。

それを見ていた他の調理道具たちは、

「スプーンくんは、いろいろな人を

ニコニコにすることが出来るんだね。」

と感心しました。

よかったねスプーンくん。

(終わり)